

## CISPR シドニー会議 SC-I 対処方針および審議結果(案)

資料 25-9

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
<b>1. 開会</b>	2007年9月17日(月) 9:00~17:30		議長が会議出席者に歓迎の意を表すとともにオーストラリア国内委員会に謝意を述べて開会した。また、オーストラリア国内委員会の代表者が歓迎の挨拶を行った。
<b>2. 議事次第の確認</b>	CISPR/I/235/DA	確認する。	以下の修正を行い議事次第が承認された。 ・9.3 項に3つの sub-clause を追加 ・10.その他に3つの項目を追加 ・7.4.3 の ES からの green paper を追加
<b>3. 前回議事録の確認</b>	CISPR/I/ 214A/RM 2006年10月18日にストックホルムで開催された CISPR/I 会議議事録の確認	確認済みであり、コメントはない。	コメントなしで承認された。
<b>3.1 前回の会合で提起されたアクション</b>	CISPR/I/ 214A/RM	確認する。	6~18 GHz の測定法と許容値, LAN traffic, 無線機能付 ITE に関するプロジェクトを stage 0 に戻すという action が実行され、WP リストから削除した。 その他の action item に関しては全て完了したことが報告された。
<b>4. CISPR/I WG1, WG2, WG3, WG4, PLT-PT メンバーリストの確認</b>	IEC WEB, IEC CIS/I Dashboard, General Information, Working Groups	確認する。	メンバリストは IEC の WEB サイトからダウンロードできることが紹介された。 Mr. Lihitig が WG3 の chairman をリタイアするので、AC を回付して後任を募集することとなった。
<b>5. IEC 中央事務局からの情報</b>	Dr. Bailiff より情報提供が行われる。	確認する。	SMB が各 SC/TC に"System Approach"を行うよう要請したこと、規格文書等における特許権については、規格化に携わる人が注意するとともに、会議において chairman が注意を喚起することが確認された。また規格文書内で特許権を使用している場合は、introduction にその旨を記載することが確認された。 この他、IEC の現状(144 カ国参加, SC/ TC の総数が 178 等)、メンバの権利、各 document の有効期限などについて報告があった。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
6. CISPR/I の作業プログラムの確認	IEC WEB, IEC CIS/I Dashboard, Work Programme, CISPR/I/237/PW CISPR/I の作業プログラムの確認。	確認する。	CISPR32 の規格化に関してはステージ 0 に戻し、平行して 3rd CD を添付した NP を発行することとなった。一方、CISPR35 は CISPR32 の状況をみて判断することとなった。  また、それぞれの規格の maintenance date は、下記の通りであることが確認された。 ・CISPR13:2009 年 ・CISPR20:2010 年 ・CISPR22:2009 年(2008 年から変更) ・CISPR24:2009 年(2008 年から変更) ・CISPR29:2009 年
7. CISPR/I のプロジェクト	現在進行中のプロジェクト、課題、リーダー、参加者、検討状況および今後の予定について確認する。		
7.1 FDIS ステージへ進むことが合意されたプロジェクト			
7.1.1 CISPR 22 A3 Ed.5.0 CISPR 22 の改定	CISPR/I/185/CDV CISPR/I/204/RVC 通信ポートの伝導妨害波の Non-invasive (非侵襲)測定法の修正と今後の扱いについての審議が行われる。	昨年ドイツ、スイス提案に基づく修正の妥当性を確認した上で FDIS 化に賛成する。	CDV が 92%承認で approved されたが、内容に技術的な問題点があった。そのため問題点の解決方法等を示した DC を発行(2007.12)してから、FDIS を発行することとなった(2008.12)。
7.2 CDV ステージへ進むことが合意されたプロジェクト	CDV ステージのプロジェクトがないため議論は行われない。		
7.3 CD ステージのプロジェクト			

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
7.3.1 CISPR 32 Ed.1.0 CISPR 32 第1版の作成 マルチメディア機器の無線妨害波の許容値と測定法	CISPR/I/224/CD CISPR/I/233/CC CISPR32 第1版の 2nd CD 文書である I/224/CD に対する各国コメントをレビューした結果が報告され、各測定法と許容値の妥当性、試験時 EUT 構成・動作条件等が審議される。そして審議結果をもとに 3rd CD を作成するか CDV ステージへ進めるかについて判断する。	CISPR32 第1版の 2nd CD への各国コメントをレビューした結果の報告を聞く。各測定法と許容値の妥当性については、状況をみて対応するが、必要により IEC Directive に基づき Reference test method を規定すべきであることをコメントする。さらに検討すべき技術的課題が残されていると判断される場合は 3rd CD の作成をコメントする。	WG2 コンビナーの Mr. Storrs から、11 月に 3rd CD を発行する予定であり、これが NP に添付されることになると報告された。 また、複数の試験法に関する議論は 10.1 項で行うこととし、PLT に関する事項は PLT プロジェクトの審議結果を待つこととなった。
7.3.2 CISPR 35 Ed.1.0 CISPR 35 第1版の作成 マルチメディア機器のイミュニティ規格	CISPR/I/225/CD CISPR/I/236/CC CISPR35 第1版の 1st CD 文書である I/225/CD に対する各国コメントレビュー結果が紹介され、各試験法と限度値の妥当性、試験時 EUT 構成・動作条件等が審議される。そして審議結果をもとに 2nd CD を作成するか CDV ステージへ進めるかについて判断する。	CISPR35 第1版の 1st CD への各国コメントをレビューした結果の報告を聞く。各試験法と限度値の妥当性、性能判定基準等については、わが国のコメントが反映されたことを確認する。さらに検討すべき技術的課題が残されていると判断される場合は 2nd CD の作成をコメントする。	WG4 コンビナーの Mr. Davies から、8 月のデンバー会議の概要紹介があり、3 月あるいは 4 月に 2nd CD を発行する予定であることが報告された。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
7.3.3 CISPR13: 音声およびテレビジョン放送受信機ならびに関連機器の無線妨害波の許容値と測定法のメンテナンス	CISPR/I/222/DC CISPR/I/231/MCR CISPR/I/232/CD 音声およびテレビジョン放送受信機ならびに関連機器に対する伝導及び放射妨害測定を実施する際に、準尖頭値及び平均値検波器の代わりに RMS 平均値検波器を導入する提案について、各国コメントの審議結果をもとに 2nd CD を作成するか CDV ステージへ進めるかについて判断する。	本提案については、 ①実機を用いたデータによる確認が必要である。 ②I/WG2 で計画中的の実機による確認実験結果も考慮すべきである。 ③限度値を決定するに当たってはH小委員会からの意見を待つべきである。 等の理由で CDV 化は時期尚早であることをコメントする。	WG1 コンビナーの Mr. Tzimenakis から RMS 平均値検波器の CD に対するコメント収集が完了し、CC の作成をここ数週間のうちに行う予定であることが報告された。
<b>7.4 準備段階にあるプロジェクト</b>			
7.4.1 CISPR22 A3 f1 Ed.5.0 CISPR22 第 5 版の修正 電源線通信 (PLC) 機器のための測定法と許容値	CISPR/I/211/DC CISPR/I/218/INF 2007 年 4 月のシンガポール会議での合意 (Indoor PLT と Outdoor PLT の妨害波許容値と測定法の CD 案を準備) に基づき、2007 年 6 月のジュネーブ会議で両 CD の骨子が合意された。2007 年 7 月の PLT-ISO タスクフォースの結果を反映した CD 案が準備される予定であり、PLT プロジェクトリーダーより本 CD 案が提示され、内容についての審議後、CD として意見照会に回付するか否かについて判断する。	CD 案の内容を確認する。 必要に応じて我が国の PLT 機器に対する技術要件を提示し、できるだけ調和を図っていく方針で対応する。	プロジェクトリーダーの Mr. Faure から US からのコメントを反映して I/211A/DC を回付したことが報告された。また、Indoor-PLT と Outdoor-PLT の 2 つの CD 文書を準備中であるが、Indoor-PLT の CD は Sydney 会議後 (9 月) に発行予定であることが報告された。
7.4.2 CISPR 24: 情報技術装置の イミュニティ限度値と試験法の メンテナンス	CISPR/I/213/MCR CISPR 24 を改訂するための CD 文書の準備状況が報告される。	報告を聞き今後の方針を確認する。 CD 文書の準備に賛成の態度で臨み、本件に関するタスクフォースを設立する場合は積極的に参加する。	WG3 co-convenor の Mr. Pettit より、I/213/MCR に基づき CISPR 24 を改訂するための CD 草案が準備され、現在 WG3 メンバに照会中である、WG3 シドニー会議で審議する予定であることが報告された。また、シドニー会議後に CD を発行予定であることが報告された。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
7.4.3 CISPR 22 のメンテナンス	前回のストックホルム会議で作業プロジェクトから削除された案件等の扱いが再度審議される可能性がある。	状況をみて対応する。	<p>WG3 co-convenor の Mr. Pettit から non-invasive と PLT の規格化作業が進行中であることが報告された。また、Mr. Hairman から SCA と SCI の JTF 状況に関して情報提供が行われた。これに関連して、参考文献として日付有り/無しどちらを選択するかについて、IEC には一般的なルールが無いことが確認された。本件について SCS に諮ってはどうかと南アフリカより提案があったが否決された。</p> <p>ES から図 C.6 の Mains に関する分岐を削除すべきとの提案が行われた。これに関連して、CISPR32 は PLT 機器を対象としているが、許容値あるいは測定法などは PLT-PT の結論待ちであることが確認された。日本からは、図 C.6 は現状のままとし、PLT-PT の結論を待つ必要に応じて修正を行うべきとのコメントを行った。議論の結果、本件を MCR の DC に追加して、NC の意見を聞くこととなった。</p> <p>最終的に CISPR22 の MCR 項目としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① non-invasive measurement → 削除(8.3 項へ)</li> <li>② update of dated references</li> <li>③ clarification on selection of ISN relating telecommunication cable path usage</li> <li>④ ISO/IEC JTC との ISN の見直しに関するリエゾンの件(LCL の見直し)</li> <li>⑤ 図 D6、図 D7 の ISN の warning note の修正</li> <li>⑥ treatment of mains branch in Fig. C.6</li> <li>⑦ SCI と SCA の JTF の output の採用</li> </ol> <p>の6つであることが確認された。これを DC 文書化して NC に回付することとなった。</p> <p>MCR 発行のスケジュールとしては、2007.12 に DC 発行→2008.1 に CD 発行→2008.10 に CDV 発行→2009.3 に修正版 CDV→2009.8 に FDIS 発行が確認された。</p> <p>CISPR32 が発行された段階で、CISPR13 及び CISPR22 の maintenance cycle を 5 年にする。CISPR35 と CISPR20、CISPR24 も同様。</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
<b>8. 作業班からの報告(上記以外)</b>			
8.1 WG1からの報告	CISPR/I/242/INF WG1のコンビーナから活動状況が報告される。	報告を聞く。	ConvenerのMr. Tzimenakisから、CISPR13 Ed4 Amd. 3のCDが発行され、CISPR13 Ed5が2009年に発行される予定であること、CISPR20 Ed6が2006.11に発行済みであること、CISPR/I/234/DCがSCIとSCAのJTFから発行されたことが報告された。
8.2 WG2からの報告	WG2のコンビーナから活動状況が報告される。	報告を聞く。	ConvenerのMr. Storrsから、I/224/CDを回付してCC文書を作成するとともに、新たな用語の定義が必要となりdefinition TFを設立して検討を行ったこと、3rd CD案の最終版を今回のWG2会議で審議予定であることが報告された。そして、次回のWG2会議を来年6月に開催し、3rd CDに対する各国コメントを審議してCDV化の是非を判断する予定であることが報告された。
8.3 WG3からの報告	WG3のコンビーナから活動状況が報告される。	報告を聞く。	Co-convenerのMr. Pettitから、CISPR24のメンテナンスに関しては、SydneyのWG3開催後できるだけ速やかにCDを回付する予定であること、CISPR22に関してはnon-invasive measurementの見直しを行っていることが報告された。 関連してnon-invasive measurementのみ分離してFDIS化すること、来年6月にWG3を開催する予定であることが確認された。
8.4 WG4からの報告	WG4のコンビーナから活動状況が報告される。	報告を聞く。	ConvenerのMr. Daviesから、I/225/CDに対するCCを作成中であり、8月のデンバー会議で構築したTFの検討結果を来年2月のコペンハーゲン会議で審議し、来年4月に2nd CDを発行予定であることが報告された。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
8.5 PLT-PT からの報告	CISPR/I/240/INF PLT-PT のコンビーナから活動状況が報告される。	報告を聞く。	プロジェクトリーダーの Mr. Faure から下記の報告があった。Kista 会議後 4 回の PT を開催し、in-home 向け、out-door 向けの 2 つの CD を作成している。ISN を用いた測定法の問題点に関して、7 月の TF 会議(ベルリン)で検討を行い、結果を in-door 向け CD 案に反映した。Out-door 向け CD の発行はまだ時間がかかる見込み。次回 PT は 2008.2 もしくは 2008.3 に開催予定。
<b>9. 他の CISPR 小委員会の活動状況</b>			
9.1 CISPR/A における SC-I に関連が深いプロジェクト			
9.1.1 CISPR/SC-A と SC-I の合同タスクフォース	CISPR/I/195/DC, CISPR/I/207/INF, CISPR/I/208/INF, CISPR/I/226/INF, CISPR/I/234/DC, CISPR/I/228/INF, CISPR/I/229/INF CISPR/A の議長より SC-I に関連が深いプロジェクトとその審議状況が報告される。 なお、CISPR 13 と CISPR 22 に記述されている伝導および放射妨害波の測定法の一般的事項を、CISPR 16 シリーズに移設することを提案した CISPR/I/234/DC については、各国国内委員会からのコメントが審議され、合同タスクフォースで今後検討する課題の明確化が図られる。	報告を聞く。2 件の DC 文書の議論については、我が国の回答に基づき状況をみて対応する。	Mr. Heirman から、SCA の動向として以下の報告が行われた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1GHz 以上の測定法は CDV ステージである。</li> <li>・Antenna calibration に関してはステージ 0 となるため、新しい CD を添付して NP を発行する予定である。</li> <li>・AE のケーブルのインピーダンス安定化のため、CMAD の検討を行っている。</li> <li>・1 GHz 以下におけるテーブルの影響について検討中である(3~6 dB の影響が考えられる)。</li> <li>・SCD との JTF で時間領域における妨害波測定について検討中である。</li> </ul> 他  Mr. Gorini から、SCI と SCA の JTF の状況について、SCI, SCA それぞれへの recommendation を整理して I/234/CD を発行した。9/25 に次回の JTF を開催し、NC からのコメント(I/239/INF)の review を行う予定であることが報告された。また、本 JTF の目的は CISPR13 や 22 の測定法を変更することではないこと、まず reference となる CISPR16 を変更し、その後 CISPR13 等を修正することが確認された。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
9.2 CISPR/HにおけるSC-Iに関連が深いプロジェクト	CISPR/I/223/DC, CISPR/I/227/INF CISPR/Hの議長よりSC-Iに関連が深いプロジェクトとその審議状況が報告される。	報告を聞く。PLT機器の許容値を検討するSC-IとSC-Hの合同タスクフォース設立に関する状況を確認する。	Mr. Verholtから、SCIとSCHのJTFについて、本JTFはPLTを始めとする広帯域通信システムの妨害波モデルの検討を目的としているが、未だに開催されておらず、来年2月にコペンハーゲンで開催される予定のWG4に引き続いて開催する予定であることが報告された。
9.3 リエゾン			
9.3.1 JTC1 SC25 WG3 とのリエゾン	2005年のケープタウン会議で、IEC TC46CからCISPR/Iに提出されたCISPR22の擬似通信回路網(ISN)の平衡度(LCL)に関する提案に対しリエゾンを持つことが決定されており、その後の進捗状況(リエゾン担当者:英国メンバ)が報告される。	ISNのLCLの見直しは、通信ポートの伝導妨害波の測定と許容値に対する適合確認に重大な影響を与えるため、TC46CとCISPR/IのJTFを構築して検討すべきであることを再度主張するとともに、JTFが構築された場合は積極的に参加する用意のあることを提案する。	Mr. Morsmanから、Liaison文書としてI/229/INFが発行されたことが報告された。また、ISO/IEC JTC1 SC25 WG3のN828文書の扱いについては、WG3のISN-TFで検討することとなった。
9.3.2 ITU-T SG15 とのリエゾン	ITU-T SG15で検討中の広帯域通信システム(PLTを含む)からの妨害波に関する検討状況が報告される。	報告を聞き、状況をみて対応する。	Chairmanから、ITU-T SG15が勧告G.hn作成にあたって、CISPRからの参加者を募集していることが報告された。その場で立候補を募り、Mr. Detrezが参加することとなった。
9.3.3 ITU-T SG5/ITU-R WP7D とのリエゾン	ITU-R WP7Dが懸念している、PLTシステムからの妨害波に関する検討状況が報告される。	報告を聞き、状況をみて対応する。	Mr. Olivierから、WP7DがCISPRとITU-T SG5に、JTFへの参加を呼びかけていることが報告された。
10. その他の議題		状況をみて対応する。	



審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
10.1 Reference test method の使用	CISPR/1144/INF, 77/342/INF		ISO/IEC Directive の修正に関して NC の意見を確認した結果、Reference test method を規定することに賛成が9カ国(ドイツ、日本、南アフリカ、米国、イタリア、カナダ、オーストラリア、中国、チェコ)、相関性が認められる場合のみ複数測定法を容認が3カ国(フランス、デンマーク、ベルギー)、相関性に関係なく複数測定法を容認が5カ国(スウェーデン、英国、フィンランド、オランダ、アイルランド)となり、CISPR32 及び 35 では、reference test method を規定することとなった。 次に、reference を決めるための基準が必要との意見がスウェーデンより出され、これに対して chairman が以下の要求条件を提案し承認された。 ・放射エミッション 1 GHz 以下: CISPR16 の NSA 要求条件を満足する全ての測定法 ・放射エミッション 1 GHz~6 GHz: CISPR16 の自由空間条件を満足する全ての測定法 ・電源線伝導妨害波: AMN(80 cm テーブル) ・通信線伝導妨害波: フローチャートによる また、イミュニティに関しては WG4 で検討することとなった。 なお、具体的な reference test method は、WG2、WG4 で検討し、それぞれ CISPR 32、CISPR 35 に反映することとなった。
10.2 CISPR/I に係る「定義」に関するタスクフォース			リーダーの Mr. Winter より、本 TF は定義すべき term の input を待っている状況であることが報告された。
10.3 1906 AWARD	AC/32/2007		Mr. Medler(独)が受賞したことが報告された。
11. 次回会議の予定	大阪での開催スケジュールが報告される。	報告を聞く。	次回の CISPR 合同会議は 2008 年 10 月 20 日~29 日に日本(大阪)で開催されることが報告された。日本国内委員会を代表して両宮委員が若干の情報提供を行った。
12. 閉会	議長がオーストラリア国内委員会と各国・各機関からの出席者に感謝の意を表して閉会。		議長がオーストラリア国内委員会による行き届いた会議設備の提供と、各国・各機関からの出席者に感謝の意を表して閉会した。